

「ほっとルーム」だより



第145号 令和2年9月1日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(教育委員会 社会教育課内 Tel 21-5130)

9月は、**生福小と生福保育所**で「ほっとルーム」の
出前サロン「おあしす」を開設します。



9月16日(水)に生福小学校で、24日(木)に生福保育所で「おあしす」を開設します。生福小学校は家庭教育学級終了後に、生福保育所はお子さんをお迎えの時に開設いたします。保護者の皆さんや子どもさんの頑張り、悩んでいらっしゃることを語り合ひましょう。

新型コロナウイルス感染症防止のため、飲み物はありませんが、消毒液や座席も広がって座るなどの準備をしてお待ちしています。マスクをして、お気軽にお立ち寄りください。

生福小学校
○日時 **9月16日(水)**
(午後1時20分～1時50分)
○場所 パソコン室

生福保育所
○日時 **9月24日(木)**
(午後4時30分～5時30分)
○場所 さくら組



我が家の救命救急!

～冠岳小学校家庭教育学級～

7月14日(火)の冠岳小学校家庭教育学級では、講師に市消防署の羽根田さんと川畑さんをお招きして「救命救急法やAEDの使い方」などについて、5・6年生と一緒に親子で学習しました。

「目の前に倒れている人がいたら」というビデオを見て、救急車が来るまでの9分間の大切さを知りました。早速、心臓マッサージをしましたが、30回5セットの必要に、改めて、その大変さを体感しました。その後、AEDの使い方を学習しました。

冠岳小の保護者は毎年やっというせいか手慣れた感じでしたが、汗をかきながら、真剣に命の大切さと向き合っていました。



学級生の声 ○水泳の時だけでなく、普段、何かあった時に使えるので、やって良かったと思います。
○1年たつと忘れるので、毎年やるのは良いと思います。また、親子でやるので、共通の話題が出来ました。

子育ての中で、気になること等があったら、一人で悩まず、いつでも気軽に、ご相談ください。一緒に語りましょう。

ほっとルーム：教育委員会 社会教育課内
TEL:21-5130 FAX:36-5044

※ ご希望があれば、長子に限らず、**どの学年でも訪問**いたします。

県の相談機関
かごしま教育ホットライン24

TEL:0120-783-574 (携帯電話はつながりません)
TEL:099-294-2200



「てるてるクラブ」によるお話会 ～照島小学校～

照島小学校の読み聞かせグループ「てるてるクラブ」は、毎週木曜日の朝の読み聞かせや夏休みの緑陰読書会、クリスマスお話会等の活動をしています。7月30日(木)のお話会では、新型コロナウイルス感染症予防のために体育館一杯に広がって座りました。

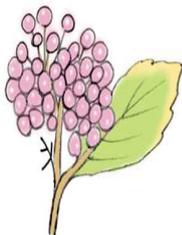


初めに、大型絵本「海をわたった折り鶴」で、広島の前爆で被爆したさだ子さんが、薬袋で折ったという折り鶴が、平和を祈念してニューヨークのツインタワービルの跡地(グランドゼロ)にささげられた事にまつわるお話でした。次に、「三びきのヤギとガラガラドン」のペープサートでのお話でした。暑い中でしたが、子どもたちは、熱心に聞き入ってお話の世界に浸っていました。

会員さんの声 ➡ 今回は、新型コロナウイルス感染症のため、個々に練習し、皆で合わせたのは2回だけでしたが、いつも、子どもたちから元気を貰います。

2回目の長子家庭訪問を始めます

(返信用封筒での、ご協力をお願いいたします。)



9月から、2回目の1年生長子家庭訪問を始めます。今年の1回目の家庭訪問は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、名刺だけの訪問でお話が出来なかったご家庭、また、それぞれ用事もあられて、お会いできなかったご家庭もあります。そこで、1回目と今回の2回目、お会いできなかったご家庭へは、簡単な内容のアンケートと返信用封筒をポストに入れておきます。

お手数ですが、訪問希望の日時(希望がある場合)や、アンケートをご記入いただき、返信用の封筒で、「ほっとルーム」へ返送していただきたいと思ひます。

お会いできなかった保護者のお声を、少しでもお聞きできたらありがたいと思ひます。

心を育てるということ

子育てアドバイス

「なんで、こんなことが分からないの？」
「なんで、勉強しないの？」と言われ続けていると、
子どもはやがて、
「本当に僕はこの家に必要な子どもなのかな」
「賢くなかったら、成績がよくなかったら、僕はこの家にいる意味がないんじゃないか」
と思うのです。だから、今
愛を確かめたい子どもがいっぱいます。
子育ての基本は、
子どもたちに愛されている実感を伝えることです。
そのためには、子どもが家庭の中で
「私が必要とされている」という実感が持てるように
一人ひとりの子どもに小さな出番を作り、
「あなたがいてくれると助かる」と伝えることです。



広木克行著 「絆を深め合う道程」より

